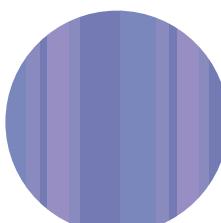
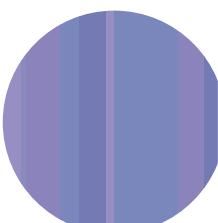
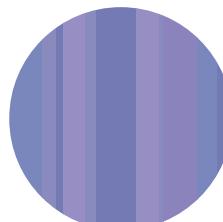
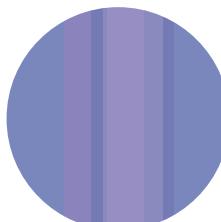
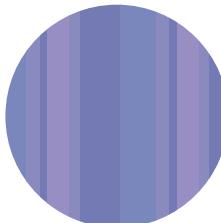
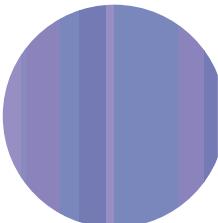
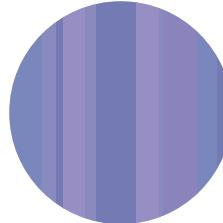
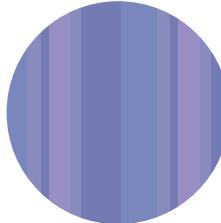


CSRレポート 2016

KANRO
Corporate Social Responsibility



ISO 26000に基づく活動

カンロは、おいしさのご提供だけではなく、
家族や友達、そして人と人を結ぶ存在でありたいと考えています。
私たちは企業の社会的責任を果たすために、
世界基準であるISO 26000に基づいて事業活動を行い、
カンロに関わる全ての人たちを応援していきます。

*ISO26000とは？

ISO（国際標準化機構）により2010年11月に発行された、組織の社会的責任に関する国際規格です。
認証を目的としたマネジメント規格ではなく、手引きとして位置づけられたガイダンス規格であり、
社会の持続的な発展のために、あらゆる組織が果すべき社会的責任について、7つの中核主題が定められています。

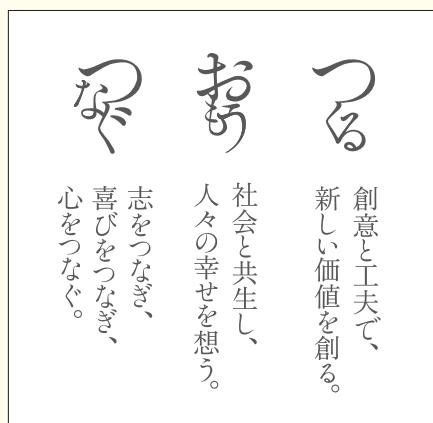


組織統治

当社は、消費者に「美味しい・楽しさ・健康」を提供することを使命とし、「つくる・おもう・つなぐ」という社是のもと事業活動を行っています。

また、事業活動を行う上で、社会の一員として法令遵守、社会貢献、公明正大な企業行動を実践するために、社員・役員の行動規範となる「企業行動憲章」を制定し、企業倫理の指針としています。

これらに加えて経営の透明性および健全性の確保、経営の効率性の向上を目指し、継続的な企業価値向上を実現するためには、取締役会および監査役会の機能強化、経営状況の情報開示(ディスクロージャー)、株主への説明義務が重要であると考え、コーポレートガバナンスの充実に取り組んでおります。



● コーポレートガバナンス

株主価値の観点から経営を監督する仕組みを確保するために独立社外取締役を招聘するなど、独立した立場からの監督機能強化に努めています。

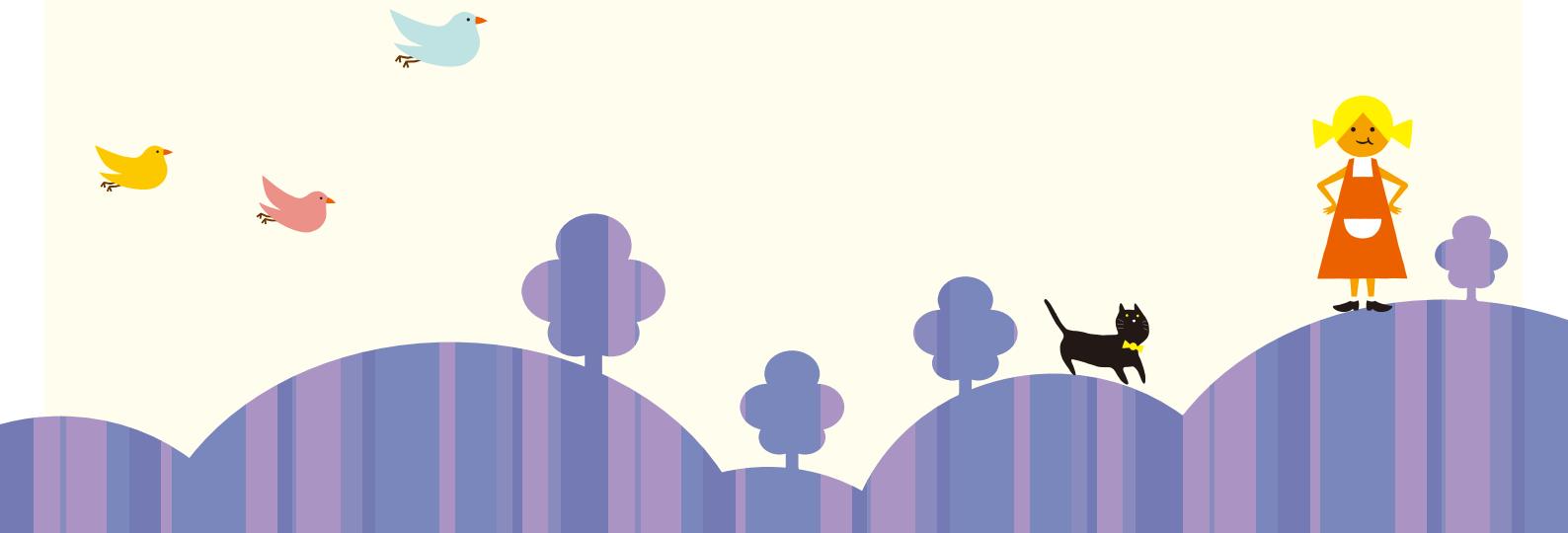
今後もコーポレートガバナンスコードへ適切に対応し、企業経営における客觀性や透明性をより一層高めて参ります。

● BCP(事業継続計画)

すべての役員、従業員とその家族の安全確保を第一とし、その上で業務の早期復旧および継続を実現すべく、事業継続計画を策定しております。

お菓子の製造メーカーである当社の使命は、安全で安心な製品の安定供給です。大規模災害が発生した場合には、調達先の被災状況を確認し、仮に特定の材料の供給が途絶した場合でも安定供給を図るために、代替の原料を使用するなど生産の継続または早期再開を図ります。

*BCP: Business Continuity Plan



コンプライアンス

法令・社内規程にとどまらず、一般的な社会規範等を遵守して行動することを定義しています。

研修:

全社員対象や階層別など、様々な研修を実施してコンプライアンス教育を徹底しています。

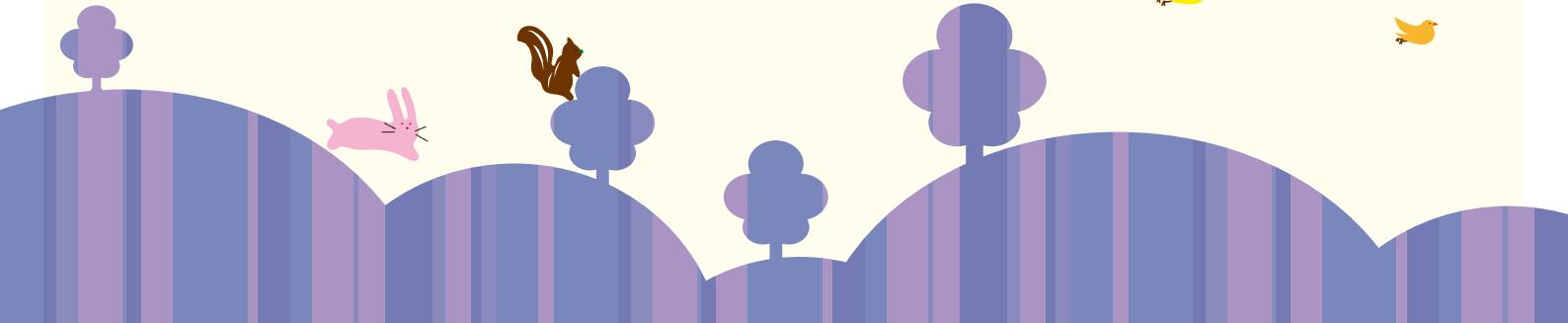
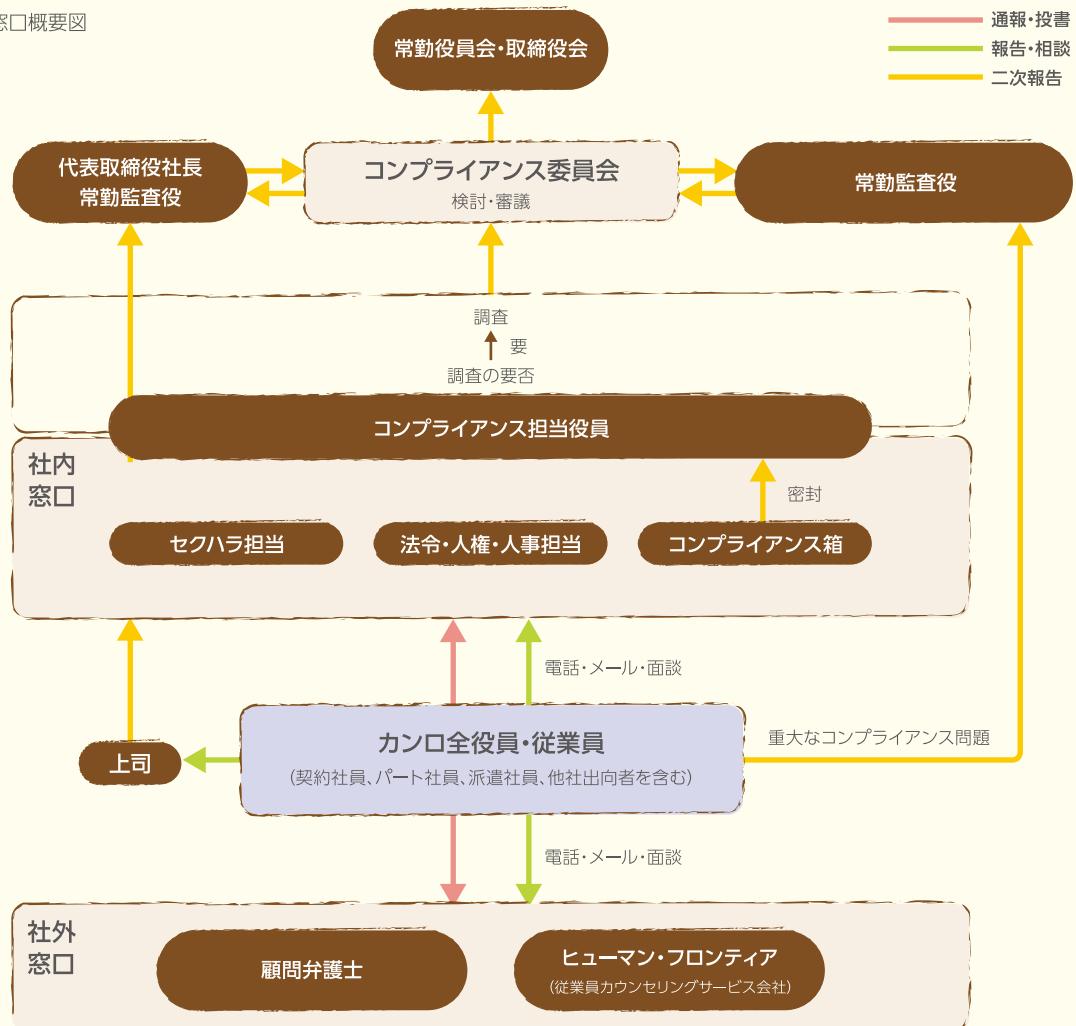
内部通報窓口の設置:

内部通報およびコンプライアンスに関する質問・相談等に対応する窓口を社内外に設置しています。

社内体制:

コンプライアンス担当役員を置き、その者を委員長とするコンプライアンス委員会を設置しています。原則、毎年2回定期時の委員会を開催し、規程の策定、変更に関する事項、教育に関する事項を審議しています。

内部通報窓口概要図



地域社会のために

● フードバンク活動

賞味期限内であるにも関わらず、様々な理由から市場に流通できない食品を、食糧を必要としている福祉施設や貧困者に配布する「フードバンク活動」を「セカンドハーベスト・ジャパン」を通して行っています。



SECOND
HARVEST
セカンドハーベスト ジャパン

セカンドハーベスト・ジャパン

日本で初めてフードバンク活動を始めたNPO法人。
関東圏を中心に全国規模で活動。

● 地域イベントへの出展

カンロは、「食」を通じて地域社会の皆様とより良い関係を築けるように、本社がある東京都中野区の地域イベントに積極的に出展しており、2015年から累計し74名の社員が参加しています。今後は中野だけに留まらず、全国の皆様と交流する機会を創出してまいります。



● 地域への製品寄贈

毎年11月10日の創業記念日にあわせて、本社や工場のある4拠点にカンロのキャンディを寄贈しています。寄贈したキャンディは児童施設や障害者、高齢者の施設などに配られ、毎年多くの方に喜んでいただいています。



● CANDY PARK ヒップのヒカリ

創業100周年を記念し、カンロ発祥の地に建つひかり工場敷地内に開設。カンロという企業やキャンディをより身近に感じていただきながら、地域の皆様を結ぶきっかけになればと願っています。



● 他社との協働CSR活動

株式会社 丸井グループ様

同じ中野区に本社を構える丸井グループ様が主催した「中野マルイ5周年感謝祭」へ出展し、協働で地域貢献を行いました。



株式会社 ポプラ社様

ポプラ社様が主催する絵本の読み聞かせ会にキャンディを提供しており、親子のコミュニケーションの促進や、こどもたちの心の成長、言語・学習能力の向上などのお手伝いをしています。



こどもたちのために

● 飢餓撲滅活動の支援

食糧支援機関である国連WFPの活動を評議員として応援しています。2014年からは、寄付つき商品を販売し、飢餓問題を伝え、こどもたちに学校給食を届ける支援をする「レッドカップキャンペーン」に参加しています。



© Mayumi.R

● こどもたちの健康を願って

カンロの本社にて、NPO法人シェアが主催するワークショップを開き、カンボジアのこどもたちに手作りのぬいぐるみを贈る活動に参加しました。この活動は、乳幼児検診の受診を促すため、検診に来た母子にぬいぐるみをプレゼントするもの。ワークショップではカンボジアの現状を学び、こどもたちの健やかな成長を願ってぬいぐるみ作りを行いました。



● 世界のこどもをキャンディで笑顔に

2015年から「Save the Children Japan」とパートナーシップを組み、対象商品の売上の一部を寄付することで、モンゴルのこどもたちを支援するソーシャル・サーカスに協力しています。ソーシャル・サーカスとは、サーカスの技術をこどもたちに教えることを通じて、サーカスの面白さに触れるだけでなく、こどもたち自身の協調性や自己肯定感を高めることを支援する活動です。モンゴルは、急激な経済成長を遂げる一方で所得格差の問題が顕著になっており、国民の2割強が貧困ライン以下の生活を余儀なくされています。その影響を最も強く受けているのがこどもたちであり、こどもたちの心理社会的なサポートが重要な課題となっています。当社ではひとりでも多くのこどもたちが笑顔になれるようにこの活動を支援していきます。



表紙一部・上記写真 © D.Davaanyam / Save the Children, Save the Children

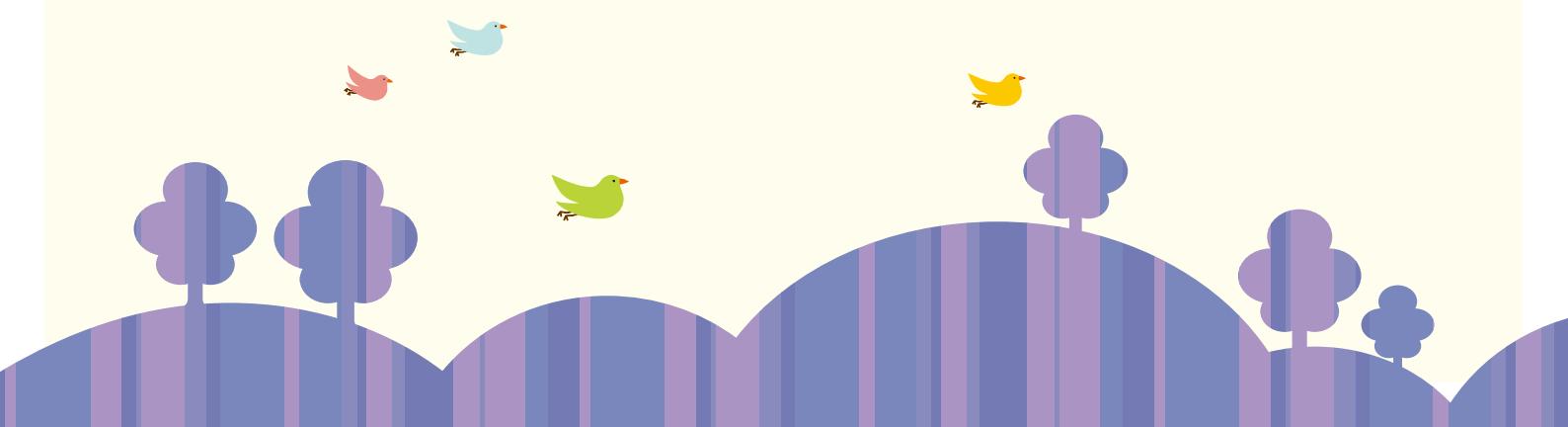


社員の声

- ・社員が集まり、みんなでこのような活動ができたことはとても嬉しいです。
- ・一人でも多くのこどもが笑顔になれることを願って、ぬいぐるみ作りをしました。

こどもたちの声

- ・僕はソーシャル・サーカスの練習に参加して1年になります。その間に身長が1cmだけ伸びて、これからもっと大きくなると思うとうれしいです。英国大使館でのイベントではピエロを演じました。責任は重大でしたが、とっても幸せでした。これからも練習を続けて、もっと演技が上手くなりたいです。(Eさん12歳)



● オリジナル教育CSRプログラムを開発

「カンロの作るキャンディが人と人が繋がるきっかけとなってほしい」。そんな思いをもって事業活動を行ってきたからこそ、次世代を担う子どもたちに人との繋がりの大切さを学んでもらうオリジナルプログラムを開発しました。社員が学校へ出向き、キャンディの作り方をはじめ、研究・企画・生産・営業の一連の仕事を解説し、どれだけの人が繋がって商品がお客様の手元へ届いているかを学ぶプログラムです。当社がこれまでに事業活動を通して得たノウハウや情報が子どもたちの健やかな成長の一助になればと願っています。

*教育CSRとは:教育現場への講師派遣や教材の開発・提供、施設見学・職場体験の受け入れなど、企業が社会の一員として教育活動に貢献すること。

カンロ飴を届けよう～キャンディの裏側～

「キャンディが作られてから、お客様の手元に届くまで」の一連の企業活動を体験



カンロこども社員 **66名**

カンロこども社員とは「カンロ飴を届けよう～キャンディの裏側～」プログラム修了者とします。



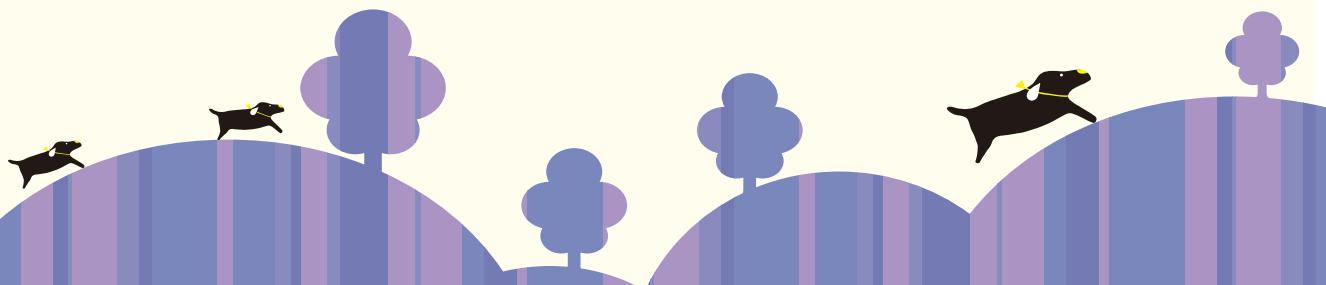
参加者の声

こどもたち

- ・普段食べている飴をよく知ることができて物知りになった感じです。
- ・工場が色々な工夫をしていてすごいと思いました！

保護者

- ・飴を作る会社が飴を作るだけではなく、作った飴を誰に届けたいか、そのためにどのような工夫が必要か考えるなど、一連の企業活動を肌で知ることができ、子どもの将来の職業選択に役立つ授業でした。
- ・今後子どもが買い物をするときは今日のことを思い出し、ひとつひとつの商品の裏側には色々な人の関わりや想いがあるということを感じてほしいと思いました。



従業員のために

● 高齢者雇用

定年退職後、再雇用を希望する社員を対象に、培ったスキルや人脈を活かせる継続雇用制度を設けています。再雇用者のモチベーション向上のために第2退職金制度の設立、短時間勤務制度の導入など、定期的に制度を見直し働きやすい運営を目指していきます。更に、再雇用を希望しない社員に対しての支援制度を実施し、3名がこの制度を利用しました。特別退職金の支給に加え、再就職や独立・起業から海外や田舎への移住、ボランティアまで、充実したセカンドライフを幅広くサポートしています。

| | 退職者 | 再雇用制度利用者 | 再雇用者合計人数 |
|--------|-----|----------|----------|
| 2012年度 | 6名 | 4名[67%] | 16名 |
| 2013年度 | 4名 | 3名[75%] | 18名 |
| 2014年度 | 5名 | 5名[100%] | 19名 |
| 2015年度 | 2名 | 1名[50%] | 16名 |
| 2016年度 | 2名 | 1名[50%] | 11名 |

● 女性の活躍推進

多様な働き方や生き方を認め合い、ひとりひとりが能力や個性を遺憾なく発揮できれば、従業員はもちろん会社の成長、発展にも繋がります。また、女性が活躍できる会社は、全従業員にとっても働きやすい会社であるという観点からも、今後更に女性の活躍を推進していきます。その足掛かりとして、2016年4月に施行された女性活躍推進法に基づく行動計画の目標に「管理職に占める女性の割合を8%(現在5%)にする」ことを掲げ、全従業員へのアンケートやインタビューによる実態調査を行いました。今後、更なる取り組みを展開していきます。

● 人材育成

従業員に能力向上と活用の機会を積極的に与え、自ら考えて業務遂行できる人材を育成し、個々人の成長を会社全体の成長へ繋げていきます。

評価制度:

業績の結果のみならず業務プロセスにも重点をおいた評価制度を導入しています。

教育制度:

新入社員およびフォロー研修をはじめ入社3年目、主任、係長、管理職前といった細かな階層別研修のほか、職能別講座、自己啓発教育(通信教育)、インストラクター制度、社外ビジネススクール受講支援など各種研修プログラムを実施しています。

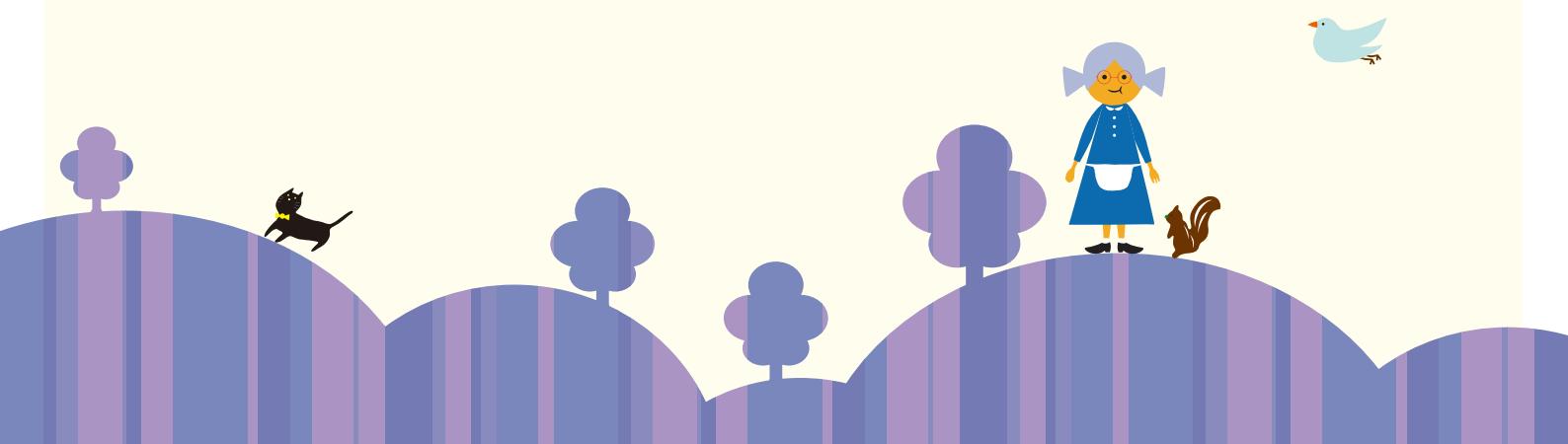


● 健康管理

従業員の年齢や性別に応じ、人間ドックや女性のガン検診等の費用も会社負担にすることで、各種健康診断を受診しやすい環境を整えています。またEAP(従業員支援システム)を導入し、ストレスチェック、カウンセリング、メンタルヘルス研修等による心の健康サポートを進めています。

● 契約社員から正社員へ

働く意欲の高い契約社員がよりやりがいや責任を持って働ける環境づくりのために、積極的に正社員へ登用する制度を導入。正社員化による福利厚生の充実や賃金の上昇で、従業員のモチベーションアップ・キャリアアップを目指す取り組みです。2016年度は4名が登用されました。



● 職場環境の改善

社員ひとりひとりが最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、より働きやすい職場環境を目指し、改善を行っています。本社ビルと豊洲研究所にはそれぞれ開放的なリフレッシュルームを新設。カラフルで五感が刺激されるような空間になっており、社員の憩いの場として、ときには打ち合わせや交流スペースとしても活用しています。



● CSR教育

社会に貢献し、信頼され続ける企業であるために、社員ひとりひとりがCSRを理解することが重要であると考えています。そのために社内媒体を活用し、CSRに対する考え方や取り組みについて理解・浸透を促しており、アンケートによる理解浸透度の確認も行っています。昨年は、当社が支援するSave the Children Japanによる講演会も開催しました。



● 取得しやすい育児休業制度へ変更

従業員が仕事と子育てを両立できるように育児休業制度の見直しを行い、男性で初となる取得者も出了ました。これからも育児休業を取得しやすい職場づくりを進めてまいります。

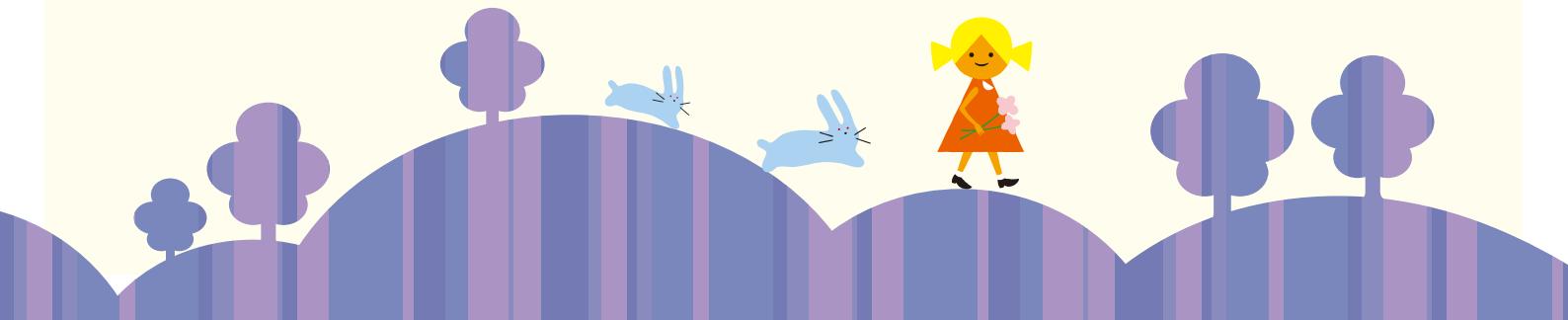
2016年育児休業取得者

女性6名 男性2名

(2016年開始、または継続中の人数／2016年復職者は除)

● ファミリーリーダーの開催

昨年、従業員の家族を本社へ招待し、当社の企業活動を学ぶプログラムなどを通じて会社や仕事に対する理解を深めてもらうファミリーリーダーを初開催しました。従業員の相互理解や家族の交流を図る機会となり、仕事へのモチベーション向上にも繋がっています。



お客様のために

● お客様目線の研究開発

常に原点を忘ることなく、また新しい時代のニーズにも応えるべく、お客様の視点に立った研究・開発に積極的に取り組んでいます。

● 食品関連法規の遵守

品質保証管理部門では、定期的な製品の品質監査や製造環境審査、新製品の製品設計審査を実施。食品関連の法令遵守状況の確認を行っています。

● FSSC 22000認証取得

朝日工場では、多くの方に安全で安心な「おいしさ・楽しさ・健康」をお届けするため、食品安全の国際規格である「FSSC 22000*」を2015年7月に取得しました。
*オランダの食品安全認証財団が開発した国際規格。食品への異物混入の防止や衛生管理の基準などを定めている。



FSSC 22000



<http://www.audis.jp/client.htm>
<http://www.jas-anz.org/register>

● VOC(お客様の声)活動

お客様からのお問い合わせやご意見、ご指摘などは、すみやかに関係部署で閲覧できるようにし、製品やサービスの向上に役立てています。



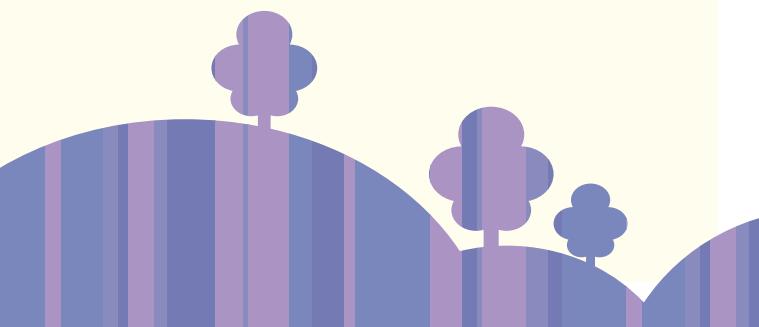
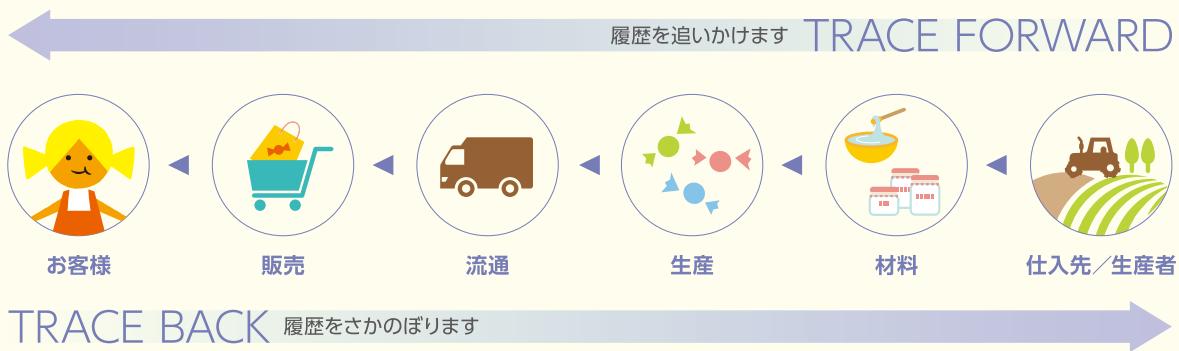
● ISO 9001認証取得

グループ会社のひかり製菓は、独自の厳しい衛生・品質管理に加え、2006年に製品やサービスの品質マネジメントシステムの世界基準「ISO 9001」を取得しました。お客様の満足度向上のために、常に品質を追い求め、安全で安心できるおいしさを皆様にお届けします。



● トレーサビリティ

トレーサビリティシステムを導入し、従来に比べて更に迅速かつ効率的に作業履歴を追跡することのできる体制を整えています。



地球環境のために

● クリーンエネルギーの利用

朝日工場は、2015年6月からCO₂を排出せずに発電できる太陽光発電設備の設置と売電の仕組みを構築しました。また、1日の発電量が一目でわかるモニターも設置し、社員への環境教育を実施しています。

松本工場では、ボイラーと空調設備の燃料を重油からCO₂の排出量が化石燃料の中で最も少ない都市ガスへ変更しました。これからも積極的に省エネ活動を進めていきます。

| 期間 | [2013年] 1月～12月 | [2014年] 1月～12月 | [2015年] 1月～12月 | [2016年] 1月～12月 |
|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| A重油排出CO ₂ | 1656 tCO ₂ | 1067 tCO ₂ | 88 tCO ₂ | 38 tCO ₂ |
| ガス排出CO ₂ | 0 tCO ₂ | 492 tCO ₂ | 1276 tCO ₂ | 1405 tCO ₂ |
| 合計 | 1656 tCO ₂ | 1559 tCO ₂ | 1364 tCO ₂ | 1443 tCO ₂ |
| 前年比 | — | 5.9%削減 | 12.5%削減 | 5.8%増 |



● 食品廃棄物を抑制する活動

製造の調整時などに発生する「不良餡」を有効活用するために、その大半を飼料・肥料としてリサイクルしています。また、生産管理の徹底により在庫を最適化することで、食品廃棄物を抑える努力をしています。



● エコ委員会

部門の垣根を超えた環境管理活動を統括する組織として、2009年にエコ委員会を設立しました。商品開発から販売まで、あらゆる事業活動の場面において継続的な環境負荷軽減を目標にしています。



● ISO 14001認証取得

製造室内の空調設備や製造工程における原料の煮詰め・冷却などに多くのエネルギーが使われている工場では、環境マネジメントシステムの認証を取得し、エネルギー使用量の削減など環境に配慮した生産活動を行っています。



CM001



JIS Q 14001
JSQE 204



JIS Q 14001
JSQE 351
ひかり工場
松本工場・朝日工場

● 排熱回収システムを採用

工場で使用している除湿機の排熱を有効利用するためにひかり工場・松本工場にて排熱回収システムを採用しています。今後は、朝日工場への展開を予定し、環境に配慮した生産を行ってまいります。



マテリアルバランス

2016年1月～12月

カンロの生産段階における環境負荷の全体像

「マテリアルバランス」とは、企業の事業活動におけるエネルギーおよび資源の投入量(INPUT)と、

その活動に伴って発生した環境負荷物質(OUTPUT)を数値に換算して、

ひと目で分かるようにしたものです。

